

公務災害防止事業の推進

▶ 安全管理セミナーを実施して ◀

熊本県消防協会玉名郡支部

1. はじめに

熊本県玉名郡は、熊本県の北西部に位置する玉東町、和水町、南関町、長洲町で構成され、4つの町を合計した面積は約211平方キロメートル、人口は約42,000人です。

当地域は、有明海や菊池川といった豊かな自然に恵まれ、はるか悠久の昔より繁栄を続けた地域で、江田船山古墳に代表される古代の遺跡や日本遺産に認定された「二千年にわたる菊池川流域の米作り」のストーリーを形づくる文化財など歴史的資源が豊富に存在しています。

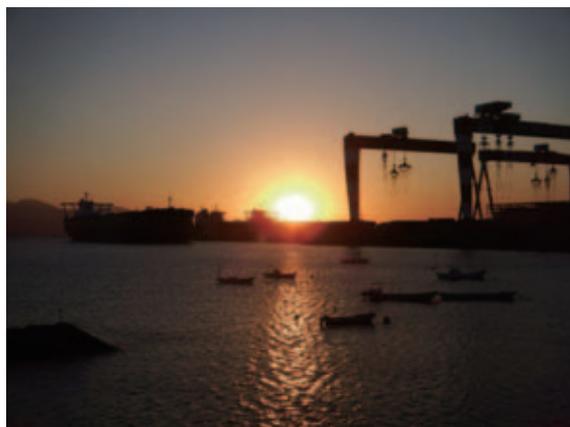
特に、NHK大河ドラマ「西郷どん」に関係の深い西南戦争の遺跡が多数存在しており、また、2019年放送予定の「いだてん～東京オリムピック噺～」の主人公で「日本マラソンの父」と称される金栗四三氏の生誕地でかつ晩年を過ごした地でもあります。

当地域は、豊かな農水産物の産地であり、多様な企業が立地し、また、九州でも有数の大規模なレジャー施設があるなどバランスの



とれた産業構造になっています。

そして、熊本都市圏と福岡都市圏の間に位置し、九州新幹線、JR鹿児島本線、九州自動車道が通り、長崎県とフェリーで結ばれるなど交通の便にも恵まれ、熊本県の北の玄関口として大きな役割を担っています。これらの立地条件の良さから、今後さらに発展が期待される地域です。



2. 支部の沿革及び組織

当支部は、昭和30年に結成され、その後昭和及び平成の市町村合併を経て、現在は玉東町、和水町、南関町、長洲町の4つの町の消防団で組織されています。

平成29年4月現在、消防団員数は1,703人（うち女性消防団員60人）、編成分団数は32分団で、消防ポンプ自動車1台、可搬動力ポンプ積載車87台を保有しています。



3. 熊本地震における活動状況

平成28年4月に発生した熊本地震では、全国の皆様から多大なる御支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

地震発生時の団員の出動人数は延べ1,000人を超え、被害を受けられた方々の救助、被害状況の確認、夜間の見回り等の活動を行いました。

現在では、熊本県の各地で、一日も早い復旧・復興を目指し、取組みが進められているところです。

4. 安全管理セミナー開催の経緯

近年の消防団をとりまく環境は、団員の減少や高齢化、また、サラリーマン団員の増加等、大きく変化しています。

このような中、熊本地震を契機として、活動時における公務災害の発生防止に向け、幹部団員等に安全管理の知識を習得させ、団員の安全対策の充実を図るため、安全管理に関する研修会を開催することとしました。

実施にあたり、熊本県消防協会から共済基金の公務災害防止事業を紹介していただき、S-KYT講師の派遣及び開催費用の助成を受け、安全管理セミナーを開催しました。



5. 安全管理セミナーの様子

平成29年7月23日にS-KYT指導員の清崎正文氏を講師に迎え、玉名郡玉東町中央公民館において開催し、支部長以下74名が参加しました。

セミナーは、公務災害の発生状況、事故の予防策、事故発生後の対応、活動現場に潜む危険などについて講義をいただいた後、「ゼロ災でいこう。よし!」と参加者で一斉に指さし唱和を行いました。最初は動きにばらつきがありましたが、回を重ねる毎に揃い、連帯感が強まりました。

講師の清崎氏から丁寧かつ熱く御指導いただき、受講した団員からは、「講義内容が分かりやすく役に立つものであった」、「安全に対する意識が高まった」、「自分と団員の安全を守り、災害ゼロを目指したい」、「指さし唱和を今後の消防団の活動に取り組んでいきたい」という意見が多数寄せられました。

6. 今後の取組について

今後は、公務災害ゼロを目指すため、幹部団員にしっかりと「安全哲学」を持たせるとともに、団員には自分で自分の健康を管理する「セルフ・ケア」と運動の習慣を身に付けさせ、心身の健康維持・増進に努めていきたいと思えます。

なお、安全管理セミナーは、平成28年、平成29年と続けて開催しました。

安全管理セミナーの開催を望む声が多く、ま

た、教育訓練の一層の充実に向け、今後もこのようなセミナーを開催したいと思います。

